

実践記録

173

シリーズ

新潟市味方地区の青少年事業について

新潟市味方地区公民館 笹川 久雄

味方地区の青少年関係事業について記載して実践記録とします。

◎関係団体との連携が多く、協力的

これらの事業の特徴として、関係団体との連携事業が多いということが言えます。小中学校はもとより、地域と学校パートナーシップ事業による「おむすびクラブ」、青少年育成協議会、味方児童館、育児サークル「リトルクラブ」などです。

◎味方小学校のおむすびクラブ

特に、おむすびクラブは、味方小学校が地域と学校パートナーシップ事業に取り組んだ成果で、空き教室に地域教育コーディネーターの働きかけで、多くの地域のボランティアや住民が学校を訪れて、児童と時間を共にしています。



(平成23年度ボランティア数 実人数101人延べ552人)。活動の内容は、学校の環境美化(花いっぱいあばの会)、児童の見学引率(学習ボランティア会)、授業でのミシン指導や将棋、コンピュータなどのクラブ指導(登録講師会)と、広範囲に及んでいます。宿題片付け隊は、夏休みと隔月で実施しており、3割以上の児童が参加しています。

◎おやじの会にはOBも活躍・今年は北海道でキャンプ

公民館とおむすびクラブの共催事業としては、「いきいき子ども塾」があります。1年生から3年生を対象にした地域のお寺での宿泊体験です。共催ということで、公民館は、講師の予算などを担当し、おむすびクラブが当日の事業展開のほとんどを担っています。

なお、4年生から6年生については、県内のキャンプ場での宿泊体験事業を、「おやじの会」と地区青少年育成協議会が共催で開催しています。平成24年度においては、旧味方村時代の姉妹町であった北海道の様似町への3泊4日の事業が計画されています。

おやじの会は、数年前に同クラブが児童の父親に声を掛けて結成した会で、生徒のお父さんの外にPTAのOBも献身的に活動を支援しています。

◎味方児童館との連携

味方児童館では、子ども向けの事業を日々展開するほか、公民館と連携して「子育て講座1・2」を実施しており、企画を双方で協議しながら、周知・募集などは児童館の人脈・情報を生かして行っています。

◎おはよう朝ごはんの実践について

新潟市の公民館では平成19年から「おはよう朝ごはん料理講習会」を地域の総括的市民団体である地域コミュニティ協議会と協働で実施していますが、味方地区においても、食生活改善委員(食推)の協

力を得て、食育を兼ねて同料理教室を毎年実施しています。今年は6月15日に実施しましたので、最後にこの事業についてご報告したいと思います。

◎楽しくゲームをしながらの食育

食推から日程、メニューなどの内容について提案があり、チラシなどの募集は公民館で担当しました。募集は、依頼文書とともに味方小学校へ持参。参加者12人。当日は、味方児童館を会場として、食推による話。参加児童は、バランス良く食べるように食品の栄養素についてゲームをしながら楽しく学びました。「みなさん、この食べ物は何色ですか。」という問いから始まったお話。主としてエネルギーとなるものは黄色、体の骨や肉、血となるものは赤色、体の調子を整えるものは緑色とし、様々な食品をゲーム感覚で学びました。特に食推の方が手作りされた食材の縫いぐるみは、好評でした。

◎じっと見守る手元 好評だった料理教室

ゲームで少し疲れた頃、隣りの健康センター調理室に移動し班編成の後、料理にチャレンジしました。



この日は、肉まきおにぎりとかぼちゃ汁。

危なっかしい手つきの子どももいましたが、だんだんとできるようになり、褒められて喜んでいる児童もいました。

3年生もいたので、食推の方は12人に対して7人の多めのスタッフを食推で対応していただきました。なるべく手をださないように、危ない手つきに注意しながらも、じっと我慢され、こどもらは時間をかけながらも自分でできた達成感があつたようです。

◎大人とのふれ合いも大切な体験

食べながらの子どもらと食推との何気ない食べ物や小動物の会話も児童には良い経験となっていました。

そのため、多くの参加者が、また参加したいと言いつつながらレシピを大喜びでもらって帰って行きました。

アンケートも「大変満足」、「今後も地域のイベントに参加したい」が100%と満足感があつたようです。

◎地域での取り組みの可能性

料理教室というと、身近なものなのでマンネリ感を持ってしまいがちでしたが、インスタント食品が広く普及している今日、「家庭料理」、「和食」も意識して家庭以外でも体験する機会をもつ必要があると感じています。

味方地区は農業が盛んなところであり、また、B級グルメなどにみる今日の「食」への関心を見ると、前述の充実した支援体制をさらに活かしながら、「食」を体験活動の中心の一つとすることで、地域全体の特徴ある活動にできないかと考えています。